

平成 29 年度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

浜田石見神楽社中連絡協議会（島根県浜田市）

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

石井芸能保存会（福島県二本松市）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

仙台・青葉まつり協賛会（宮城県仙台市）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

伊藤 よし（山形県飯豊町）

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第 4 類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

安来節保存会（島根県安来市）

地域伝統芸能奨励賞

茎永校区青年団（鹿児島県南種子町）

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

浜田石見神楽社中連絡協議会（島根県浜田市）

石見神楽の起源は定かではなく近世以前とされていますが、文化文政期の国学台頭とともに古事記・日本書紀を原拠とする神話ものが加わり、演目も豊富で極めて多彩です。特にその詩章に特徴があり、荘重で正雅な古典的なその言葉は、里神楽には極めて稀だといわれており、その中に織り込まれた土の香りの高い方言的表現、素朴な民謡的詩情とともにつくりあげています。

浜田石見神楽社中連絡協議会は、浜田市内の石見神楽社中 11 団体をまとめる連合体であり、加盟各社中では、各団員が仕事を終えた後に集まり、毎週厳しい練習を積み重ねて技を磨くとともに、市内子ども神楽社中の指導・育成や石見神楽教室の支援など当地域の伝統芸能「石見神楽」の保存継承及び人材育成に積極的に取り組んでいます。

島根県はもとより、全国各地に加え、特に、海外で石見神楽を上演する場合には、長期間仕事を休む必要がある中、同協議会が中心となって各社中から人員の選抜・調整を行うことで上演に対応しています。このことにより、アメリカ・中国・ドイツ・オーストラリア・ペルー・サウジアラビアなどアフリカ大陸を除く主要国で公演実績があり、石見神楽の知名度向上と観光振興に寄与しています。

さらに、この伝統芸能を継承していくため、後継者育成にも精力的に力を注いでおり、現在では「石見神楽を続けたい」と市外転出を望まない若者が増加し、逆に市外から「神楽がしたい」と移り住む若者も出てきており、当協議会の活動が若者定住の原動力となり、地域振興や地域づくりにも大きな役割を担っています。



地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

石井芸能保存会（福島県二本松市）

初春に家々を訪れ、その年の豊作や養蚕が豊饒であることを祈り、主に踊りの形で田植などの稲作過程を模擬的に演じて見せて祝う東北地方特有の田植踊の一つです。福島県二本松市の旧石井村に伝承されている当芸能は、もとは旧暦の小正月に集落の家々を巡って行われていましたが、今日は正月の年重ねの祝いの席に依頼されたりして踊られています。この芸能は当地方田植踊の特徴である七福神が舞い込んだ後に、田植踊りの一行登場する形で行われています。

保存会では、毎年、後継者育成講習会を実施して、地区の小学生など後進の育成に努めているとともに、二本松市内の芸能団体の中心的存在となり、各芸能団体の橋渡し役も務めています。これらの功績が認められ平成 22 年度に福島県教育委員会教育長による「文化財伝承活動顕彰」を受賞しました。「北海道・東北ブロック民俗芸能大会」や当センターが主催する「地域伝統芸能全国大会」の福島大会や成田大会にも積極的に出演し、PR 活動や後継者育成を図っています。



仙台・青葉まつり協賛会（宮城県仙台市）

1603年仙台城（城主：伊達政宗公）新築移転の宴席で当時の石工達が即興で踊った「すずめ踊り」は、長い年月石工達によって踊り継がれていました。昭和62年の第3回仙台・青葉まつりを契機に踊りとお囃子を定型化し、踊りの普及・伝承を目指しました。積極的に企業や学校への浸透を図り、今では約150団体にのぼる老若男女の祭連（まづら）が仙台・青葉まつりの主役として参加し、賑わいを創り出しています。

テンポの良いお囃子と扇子を使った躍動感あふれる踊りは、祭連によって独自のアレンジが加えられ、見ている方も自然と体が動いてくるような昂揚感があります。

現在では、青葉まつりの枠に捉われず、当センターが主催する「地域伝統芸能全国大会」や全国各地の祭り、イベントをはじめ、海外でも公演を行っています。

毎年5月第3日曜日とその前日に開催される「仙台・青葉まつり」は、すずめ踊りによる宣伝効果も高く、96万人余の観光客が訪れ、旅館業、飲食店、商店などへ大きな経済波及効果を与えています。

また、在仙企業によるすずめ踊り祭連も年々増え、地域の祭連と一体となって、まち全体の盛り上げにも貢献しています。

伊藤 よし（山形県飯豊町）

山形県飯豊町の中津川地区では、古くから信仰の山「飯豊山」に登山する修験者や農作業等に被る「菅笠」を作る文化があり、農作業後の冬仕事として代々伝わってきました。山形県を代表する夏祭り「花笠まつり」が昭和39年より開催されるようになると、踊りで使われる「花笠」用の菅笠の製作依頼を、ここ中津川地区で受けるようになり、それから、現在に至るまで製作が続けられています。現在も約8割の菅笠を生産しており、この伝統を絶やしたくないと継承活動を頑張っているのが80歳の伊藤よし氏です。

今では伊藤氏をはじめ、生産者のほとんどが高齢者となり、人数も減っているため、後継者の育成が急務です。そのような中、伊藤氏は地域内の若い人や県内外から希望のあった団体等に技術指導を行い、少しでもこの技術を残したいと後継者育成に協力し技術の伝承を惜しまずに行っています。

中津川地区では平成19年度より農家民宿が開業されました。民宿では、一般宿泊者から学生あるいは海外旅行者まで「菅笠作り体験」等の体験メニューを紹介し、飯豊町に訪れる人数が増えています。

安来節保存会（島根県安来市）

安来節保存会は明治44年に安来節の正調を保存・継承するとともに、その振興と日本民謡文化の発展に寄与することを目的に創設されました。現在では、本部道場をはじめ全国に63支部、会員数は3,500を数える単独の地方民謡団体として日本有数の組織」となっています。

保存会では技術向上を目的に、名人を頂点とする技術資格者階級への研修会や講習会、資格審査会等の実施や、普及宣伝として日本民謡フェスティバル等への出演などを行っています。また、各支部では技術の研鑽はもとより、安来節演芸館での常設公演をはじめ各種イベント参加や市民教室等の開催など、独自事業を実施し正調安来節の普及宣伝に努めています。

○葦永校区青年団（鹿児島県南種子町）

種子島の南部、南種子町葦永地区に小正月行事としての「蚕舞」は、毎年1月14日から20日にかけて各家を訪問し、養蚕が盛んだった時代は蚕の豊作を祝い、現在は家内安全と繁栄、無病息災などを祝う行事として、地域で伝承されています。

蚕舞は読んで字の如く、蚕に似せた踊りで、青年男子が着物姿で女装し、各家庭を回り、扇子をもって優雅な舞いを披露する小正月行事です。頭巾の顔の中心部は蚕の口に似せてあり、踊り子のほかに太鼓、鉦の鳴り物もいます。

葦永地区の世帯数は、約200世帯で蚕舞を希望する世帯、約40～50世帯に校区青年団男性8名、女性5名（女性団員は歌で参加します。）となり、種子島中央高校の葦永地区生徒10名にも呼びかけて「蚕舞」の練習を行っており、本番は夜6時過ぎから約1週間かけて、校区の各家を訪問し、舞を実施しています。

地域の伝統行事である「蚕舞」を継承していくために、葦永校区青年団が高校生にも呼び掛けるなど、地域の伝統行事を絶やさないように、活動しています。